

授業科目名	音声生理学	担当形態	講義		
		開講学期	春学期		
担当教員	久野 佳也夫	単位	2	年次	2

### ＝授業のテーマ及び到達目標＝

音声によるコミュニケーションの生理学的背景がテーマであり、将来発声指導にあたる場合身に付けておくべき基礎的知識を理解することを目標とする。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

受講以前の予備知識は不要。講師の声は大きくないので私語は慎むこと。講義内で説明することに関する設問に回答を提出することで出席を認定する。設問の内容、回答の提出方法は第一回講義で説明する。毎回到わり、授業中の質問を歓迎する。

### ＝授業の概要＝

講義の内容は以下の三段階にわけてある

- 2～6回 体内での発声メカニズム
- 7～9回 発せられた音声の伝播メカニズム
- 10～14回 聴取された音声を理解するメカニズム

### ＝授業計画＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。音声の誕生・伝播・聞きとり
- 2回 発声1：声帯粘膜の動き
- 3回 発声2：体の支え
- 4回 発声3：喉頭調節
- 5回 発声4：呼吸
- 6回 発声5：構音運動
- 7回 音の伝播1：音の物理的性質
- 8回 音の伝播2：音が聞き手に届くまで
- 9回 音の伝播3：聴覚経路
- 10回 音声の聞きとり1：響きと倍音
- 11回 音声の聞きとり2：言語・方言
- 12回 音声の聞きとり3：性別と声
- 13回 音声の聞きとり4：年齢と声
- 14回 音声の聞きとり5：心理的問題と音声
- 15回 設問回答例 まとめ

### ＝テキスト（必携）＝

必携テキストは指定しない。

### ＝参考書・参考資料（必携）＝

毎回の講義で講義内容の簡単なレジュメを配布する。他の参考資料としては、付属図書館の棚C-15 分類番号767の付近にある書籍が有意義である。

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

学期末の提出期限内に学務課に提出された「自分のだせる良い声の、声の性質と発声法について考えを述べなさい」という課題に対するレポートによって行う。

採点基準：Ⅰ 正確な知識と論理的考察

Ⅱ 自分の体験や他者の経験を生かしているかどうか

Ⅲ 自分なりの独自の視点があればなお望ましい

期末レポートの枚数、印刷か手書きか、についての制限はないが レポート用表紙をつける必要がある

**=その他=**